

デジタルメディア環境の変化と子どもの発達

佐藤 賢輔

【講義の概要】

本講演ではまず、現代の子どもたちを取り巻くデジタルメディア環境に関する各種データを紹介し、その実態を把握する。次に、デジタルメディア利用と発達の関係についての現時点での国内外のエビデンスを概観し、本邦における子どものデジタルメディア環境の問題点を明らかにする。さらに、それら問題を解決するために、「子どものデジタルメディア利用は善か悪か」という問いを乗り越え、子どもとその育ちを支える大人がデジタル技術との信頼関係を構築することが重要であることを述べる。最後に、子どもの読書を例として取り上げ、デジタル技術が子どもの読書をどのように豊かにする可能性があるかについて具体的な事例も紹介しながら考えたい。

【講義の構成】

1. 子どもを取り巻くデジタルメディア環境とその変化

各種データを紹介しながら子どもによるデジタルメディア環境とその変化について、実態を把握します。主な内容は以下のとおりです。

- 子どもによるデジタルメディア利用の低年齢化、長時間化
- 子どもが利用するデジタルデバイスの種類と使用目的の多様化
- 子どもたちがデジタルデバイスを利用して行っている具体的な活動とその発達の变化
- 日本の子どものデジタルメディア利用の特徴

2. 子どものデジタルメディア利用と発達の関連

国内外の研究を紹介しながら、デジタルメディア利用が子どもの発達に与える影響についてエビデンスに基づいて考えます。

- デジタルメディア利用が発達に与えるネガティブな影響
- デジタルメディア利用が発達に与えるポジティブな影響
- 発達への影響を分けるポイント
- 現在の子どものデジタルメディア環境の問題点：エビデンスに基づく評価

3. デジタルトラストの構築を目指して

まず、デジタルトラストという概念について説明し、現在のデジタルメディア環境の問題点と、デジタルトラストを構築するための課題について考えます。

- デジタルトラストとは
- デジタル“ディストラスト”（不信）とデジタル依存
- デジタルトラスト構築に向けた取り組み：デジタルリテラシーの向上
- デジタルトラスト構築に向けた取り組み：デジタルダイエットの見直し

※補足

デジタルトラストとは、私たちのデジタルメディアそのものに対する一般的な信頼、様々なデジタルコンテンツや情報に対する個々の信頼などの総称です。子どもとの関わりで言えば、育児や教育におけるデジタル活用そのものに対する信頼（または不信）、子どもが利用する個々のコンテンツに対する信頼（または不信）などがデジタルトラストに相当します。

デジタルダイエットは、デジタルメディア利用を「食生活」のメタファーを通じて理解する考え方です。例えば、食べ物と同じように、デジタルメディアにも、私たちに良い影響をもたらすもの、悪い影響をもたらすもの、子どもには与えないほうがよいものがあります。また、食生活と同様に、様々な種類をバランスよく取り入れ、同じものを過剰に摂取しないといった考え方が有効です。

4. デジタル技術と読書の未来

デジタル技術を活用した新たな取り組みの例として、読書におけるデジタル活用の事例を幾つか紹介します。

- 小・中学校向け本と学びのプラットフォーム『MottoSokka!』（ポプラ社）と、それを利用した実践の紹介
- 生成 AI と読書
- 「ハイブリッド読書」と読書体験の拡張

5. まとめ

講義を振り返り、簡単にまとめます。